

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393000357		
法人名	社会福祉法人知立福祉会		
事業所名	グループホームほほえみの里若林 (桜)		
所在地	愛知県豊田市若林東町上外根12番1		
自己評価作成日	令和4年9月28日	評価結果市町村受理日	令和5年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393000357-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393000357-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	令和4年11月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

認知症の進行や周辺症状で対応が困難な方にも根気強く向き合い信頼関係を築く様に努めている。介護拒否などに対してそれぞれで工夫をして上手くいく方法を職員間で共有し活かしている。出来ない事や難しい事よりもその方が出来る事、やりたい事、喜びに感じる事を大切に考えいつまでもその方らしい生活が継続できる様に考えている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所にはデイサービスセンターが併設され、開設7年を経過し地域に馴染み深い買い物や散歩を通して地域との関わりや広がりが増えてきている。「心と心が通い合い、ともに笑顔で地域の中に暮らす」の理念と、年度ごとにグループホームの目標やユニット目標を職員で考え、それらを振り返りながら、日々の生活の中で、入居者が自分の有する能力に応じて自分らしく過ごせるように、一人ひとりに添ったケアをするように努めている。また、「ほほえみの里若林のスタッフルール」を行動規範として、自分の行動を振り返り見直しをしながらケアに努めている。今まで培ってきた地域との交流もコロナ感染症の影響で踏み止まっているが、周りの環境の良さを活かし四季の移ろいを感じながら近隣を散歩したり、車で季節の花を見に行ったり、自宅を見たりして地域環境を忘れないようにしている。家族からの嗜好品の差し入れも以前に増して繋がりを深めている。普段している家事や花壇の手入れ、編み物、一人将棋など今まで培った生活習慣や経験を楽しみながら日常に活かす支援をしている。また、手作りの食事やおやつなど職員と一緒に調理したり、ゆとりの時間を見つけ出し職員と1対1で散歩に出かけたり庭先でお茶をするなど、気分転換やストレスを発散できる機会を作り、コロナ禍でも事業所でできることを職員と共に考え生活に取り入れている。調度品や絵画などが程よく配置された落ち着いた大人の生活環境の中で、自分らしくいられる場所に集い、安らぎあるのびのびとした生活を楽しんだり、柔らかな日差しが注ぐ和室で寝そべったり、ソファに腰かけ新聞を読んだり、職員と一緒に会話をしたりと過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について、施設内に掲示していつでも確認出来る様になっている。	法人の基本理念である「心と心が通い合いともに笑顔で、地域の中で暮らす」を掲示し、理念を基本に毎年事業所目標と各ユニットの目標を職員で話し合って作成している。目標は、日々の介護記録に記載し常に確認するようにしている。ユニット会議などで振り返り、日々のケアに繋げるように努めている。職員は年1回の面談などで確認し、それぞれの行動の指針として実践できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスの感染予防の観点から今年度も地域との交流を積極的に行う事が出来なかった。事業所としても、同じことが言えると思う。	地域の祭の参加や神輿の立ち寄り、中学生や高校生、大学生、ボランティアの受け入、定着してきた月1回の認知症カフェへの参加などもコロナ禍により難しい状況となっている。交流は難しいが散歩を通して季節の移り変わりを感じながら地域との繋がりを継続している。感染状況を確認し、専門学校生の受け入れを実施している。また、介護相談員の介入や認知症カフェも再開するなど地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として地域貢献として行ってきた認知症カフェを再開する事ができた。また、相談や見学等、お困りごとや支援の方法等について助言等をする事が出来た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	時期に応じて会議を開催と書面報告と分けて行っている。主に活動や行事についてや入居者様の生活の様子などを報告する事が多く、地域との交流についての話題は少なかった。様々な意見や考え方を話して下さりとても参考になっている。	地区長、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て年6回開催している。コロナ禍により、対面や文書開催など柔軟な対応をしている。会議録は会議内容が読み取りやすく作成され、委員には郵送をしている。また、議事録をファイルして自由に閲覧できるようにしている。家族には面会時に口頭で容を伝えたり、家族会などで報告しているが、家族の参加については課題としている。	家族に事業所の取り組みや支援を理解して頂く機会として、議事録の配布や郵送をし、会議内容の周知や会議参加への繋ぎになることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実情やサービスの取り組みについて伝える事を積極的に出来ていない。事故報告やカフェの報告等は行っている。加算や算定等の事務的な内容などは問い合わせや確認を行っている。	行政担当窓口とは、介護保険更新手続きや申請の代行業務、サービスの取り組みなどを伝え、情報交換をしながら良好な協力関係を築いている。市主催の傾聴コミュニケーションや認知症の勉強会へ参加したり、コロナの状況によりモト参加なども実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての指針を定め、勉強会や定期的な見直しを行い、職員間で身体拘束に関する考え方や廃止に向けた取り組みを行っている。実際のケアでも拘束は行わない事を前提に行っている。	2か月に1度身体拘束について勉強会や見直しをする時間を作り、職員同士で接し方などに問題がないかチェックし合い、拘束に対する意識を高めるようにしている。法人のマニュアルの他にグループホーム独自のマニュアルも作成し、行動指針としている。行動を抑制をしない様にさりげない声掛けやスピーチロックに配慮し、束縛感のない環境造りに努めている。職員の見守りの中で、一人ひとりのその日の気分や状態をキャッチし、開放的で自由な暮らしができるよう支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての指針を定めて、虐待を行わない事や、虐待に結び付く周辺環境を理解して防止に努めている。また、職員間での言葉使いや態度などをお互いに指摘し合える様にし、場合によっては上司等に相談する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、この制度に該当する方は居ないが、今後の社会において必要とされる事があるので、制度の内容等について知る機会があると良い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や料金や内容の改定時には全てのご家族様に説明と同意を得ている。それぞれの担当(管理者、ケアマネ、看護師、介護職員)を設けて行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者本人やご家族の意見を聞く様に、また少しでも叶う様に努めているが、運営に対しての意見を聞く機会はまだ設けられていないと思う。	入居者の意見や要望は日常の会話や表情から読み取り、申し送りノートに記載して会議で検討し職員間で共有して運営に反映している。家族からは面会時やケアプランの説明、家族会などで、生活や事業所に対する要望を聞きケアや接遇などの改善に役立っている。また、年1回アンケートを実施し、結果は家族に返し、また、職員で共有してサービスの向上に役立っている。ほほえみの里新聞を発行して家族に安心を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や上司はどの職員も意見が言いやすい、伝えやすい職場環境と雰囲気意識して行い、個別面談や会議等で要望や意見交換を行っている。	日常の業務の中や引継ぎ時また、ユニット会議や全体会議で職員の提案や要望を聞き、運営に反映させている。パート職員も含め人事考課を基に年1回の個人面談を実施し要望や意見、悩みなどを聞く機会を設け、処遇の改善に努めている。また、職員は一年間を振り返り自己評価を行い自らの力量を正しく理解し、向上心を持ってより良いケアに繋げるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や成果や努力を評価し人事考課を行い本部へ伝えている。また、給与や賞与、各手当も改善に努めやりがいを持って仕事に望める様に法人全体で取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験や力量に合わせて、研修や勉強会等に参加できるようにし個々の知識や技術等の習得に努めている。法人内や施設内での勉強会も工夫をしながら進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や、法人内の勉強会等を通じて同じ仕事をする者同士で交流や意見交換を勧めている。地域のグループホーム間の交流があると良い刺激になって良いと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人様やとのコミュニケーションを大切にして、それぞれが持つ不安や困っている事の把握に努めている。また、入居して初期の段階より積極的に声掛けをすすめて本人様やご家族様様の不安要素を少しでも除ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時よりの状況等の聞き取りや置かれている状況を確認し、サービスを開始す前より積極的に連絡を取り合い、不安や困りごとを確認している。契約時にも丁寧な説明を行う様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それぞれの入居者様、ご家族様の現状を見極める様に努め、今はどの様なサービスを必要とするのかを考えて取り組んでいる。他のサービスの利用の対応には至っていないが、自分達が出来る事は何かを考えて意見を出し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の暮らしの中にいるという認識を持ち、ケアをさせて頂いているという謙虚な気持ちを持つ様に意識して取り組んでいる。ケアをする立場で上から目線で物事を言わない様に気を付けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	様々な事に可能な限りご家族様を取り込んでいます。施設や職員だけではなく、家族もその方を支える大事な役割と認識して、協力を頂く様に促したり、実際に協力をして頂いている。コロナで制限をされる部分も多いと思うが今後も大切にしていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年もコロナの影響で大変難しい一年でした。面会や外出の自粛もあり思うような支援が出来ませんでした。個々での支援として少しずつ外出や面会を感染対策をしながら増やしてきている。	友人や家族の訪問で談笑したり、家族の協力を得て墓参りや正月の帰省などの関係性を継続できるよう支援したり、近所のスーパーや喫茶店、美容室など新しい馴染みの場に出かけていたが自粛している。感染状況を確認しながらベランダ越しや玄関先、相談室での面会、を再開し、馴染みの関係性を保つようにしている。また、四季の移ろいを感じながら近隣を散歩したり、車で自宅を見に行ったりして地域環境を忘れないようにしている。家族からの嗜好品の差し入れも繋がりを継続している。日常の家事や花壇の手入れ、編み物、一人将棋など今まで培った生活習慣や経験を楽しみながら日常に活かす支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握して関わり合いや交流を大切にしています。時々、入居者様同士の口論やトラブルがありますが、その際は仲介に入ってお互いが不快な思いをしない様に配慮しています。それぞれの性格や生活スタイルを理解して無理のない様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な退居理由t退居先がある中、サービスが終了しても情報共有や連絡調整を行いスムーズに安全に次のサービスに繋げる様にしている。その後の様子や状況の確認を増やしても良いと思う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の暮らし方や過ごし方に沿った声掛けやケアをする様にしている。その時々で変わる状況も多くあるが、なるべく入居者本位の意向を叶える様な意識を持って職員間で共通の認識を持つ様に、また協力し合っている。認知症でご自分の意見や思いが伝えられない方も居てその方々の意向を判断するのはとても難しいと感じるが、なるべく本人様の様子や表情等を見て判断している。	日常の入居者との関わりや会話、表情などからくみ取ったり、相談員の記録も参考にしながらケース検討会で話し合い、職員間で共有してケアに繋げている。入浴時や部屋でゆっくり話せる時間などは一人ひとりの思いや希望を聞く貴重な時間とし、「今何がしたいか」などを確認するようにしている。思いの表出の少ない方には、家族から聞き取ったり、気長に待ちながら、うなづきや表情の変化を見落とすことなく丁寧に対応するよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方を入居前よりご家族様や本人様に伺い、情報収集を行っている。これまでの生活の継続を出来る様に支援をしたいが、施設の中では難しいこともとても多く課題である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々で違う日々の過ごし方や、心身状況、出来る事ややりたい事を把握してそれぞれに違った過ごし方を行っている。心身状況の変化の多い方には、その場その場で対応を変更する等出職員間で情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケア計画をケアマネを中心に皆で話し合い本人様や家族の意見も取り入れてケアプラン作成やモニタリングを定期的に行っている。時々現状に適していない、実施できていない内容もある為、適時な変更や追加が必要だと感じる。	入居者や家族の思いを担当者が聞き生活記録を基に、医師や看護師の意見を交えて介護計画を作成している。3か月ごとに生活全般についてモニタリングし目標を立て、12か月ごとに見直しを行っている。医師や看護師、薬剤師からの情報など専門職からの意見も反映させている。生活記録にはプランチェック項目があり見直しと評価に活用され、身体状況に合うプラン作りとしている。生活記録に介護計画も一緒にファイルして各ユニットに置き、どの職員も記録内容を共有し、入居者の状態を把握して同じケアができるように個々の目標を毎日チェックしている。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や言動を記録に残している。入居者様の様子や言動の記載のみならず、気づきや考察も記載し残していき情報共有やアイデアの参考になる様にしていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応が出来る様にこれまでのサービスにこだわらず、様々なサービスに繋げていけたら良いと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでその方を支えてきた地域資源を把握する事が出来ても、それを活かす事に繋げる事が出来ていない。実現すればさらに豊かな生活に結びつくと感じるが、現状コロナが落ち着くまでは難しいのではないかと思う。施設内で出来る工夫としてヤクルトや訪問理美容を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医と、当施設の主治医と選択して頂いている。看護師を通じて各主治医や医療機関と情報共有や心身の状況を報告し適切な医療を受けられる様に努めている。外部の受診に関してはご家族様の付き添いや同行の協力も得ている。	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いている。内科は月2回提携医による往診がある。専門医の受診は家族の協力を得ているが、緊急時や家族が付き添えない場合などは職員で対応している。看護師が常駐し、薬の管理や健康管理に努め職員間で情報を共有してケアに繋げている。身体状況に変化があった時や緊急時は、24時間体制で医師や看護師、協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も日々のケアにあたり入居者様の状況をよく見て下さっている。また、介護士が気づいた日々の体調の変化等は看護師に報告や相談をして受診や処置等に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院先医療機関との情報共有と、治療やリハビリの進捗状況を確認し入院の長期化しない様に配慮している。どの程度まで回復すれば施設復帰が出来るか、または復帰困難かの判断をしっかりと行いご家族様とも共有し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の看取りの指針を定め、入居契約時にご家族様への説明と同意を得ている。どのご家族様も気にしている退居しないといけない状況に関しては慎重に丁寧な説明を行っている。その方の置かれた状況が当施設での生活に合っているのかの判断や見極めの時期に悩む事が多く感じる。	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は、その都度入居者や家族に希望を確認し医師や看護師と話し合っ計画の見直しを行っている。入居者にとって最善の援助ができるように努め、医療行為が発生しない限り看取りを含め、希望に添うような支援をしている。また、看護師を中心に看取りの研修を行っている。必要に応じて会議の中で看取りやメンタルケアなどについても話し合う機会を持ち事業所全体で取り組むようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを準備し、協力体制をとっている。実際に急変が起きた際の行動にどのスタッフも不安を抱えている。実践力を身に付ける訓練を行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防、避難訓練の中で震災や火災時の対応と通報避難の訓練を行っている。どの職員も発生時に対応が出来る様に多くの職員で行っている。地域との連携で避難の協力体制等が構築できていないのが現状で、今後さくせいする業務持続計画に反映させていきたい。	消防法に基づいて年2回、火災や地震、台風被害など様々な災害で昼間帯や夜間帯を想定した避難訓練を実施している。避難誘導や避難経路の確認、初期消火活動などの訓練の他に、断水や停電となった場合に備えての訓練も実施している。訓練時の問題点や災害時の心構えなど職員で話し合っ改善に努めている。備蓄品は水や食料の他、物資も含め3日分が用意され定期的に点検している。地域の高齢者の一時避難場所としての協力体制も整えている。法人と共にBCP計画を検討している。	災害時対策として、設備点検と共に非常用食料や備品をリスト化して、期限、残数などを把握し、職員間で共有していくことを願いたい。また、法人管理栄養士や看護師と相談し個人の食形態に合わせ安全な非常食の確保へ繋げることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する事、自尊心を傷つける様な事柄は人前では話さない様にスタッフ間で決めて配慮している。また、人としての人格を大切にその方の性格等を考慮して同性介助を基本として入浴や排泄介助を行っている。申し送りや職員間の声掛け等に無意識にプライバシーを損ねる発言をしまいう事があるので注意したい。	「人生の先輩」、「目上の方」を忘れずに尊重とプライバシーに配慮し、本人の誇りやプライバシーを損ねないように声掛けのタイミングや声のトーンなどに留意した対応に努めている。入居者の個性や人格、性差や相性などを考慮して、それぞれの立場を尊重したケアに心がけ、より良く過ごせるようにしている。接遇の一つとして研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事や体操、レクリエーションなど希望を伺いながらご自身で決めて頂き行っている。自己決定が出来る様な声掛けの方法を工夫し選択肢を持てる様にしている。自己決定が出来ない方もみえるので本人様の表情や態度を見て判断する時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	様々な場面で本人様への声掛けで意思決定をして頂いたり希望を伺っている。起きる時間や入浴の有無など、なるべく本人様の希望を伺って対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好み服装や色などを本人様と一緒に決めたり、身だしなみを整えられる様に支援している。洗顔や整容、着替え等基本的な事が抜けてしまいう事があるので毎日全員に行える様にしたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや盛り付けなどを入居者様と一緒にしている。また、それぞれの味の好みや形態も個々で可能な限り分けている。食事が楽しく、また美味しく食べれる様に個々での嗜好品も用意して対応している。	食材は業者から届けられ、献立表をもとに季節感のある食事や今まで慣れ親しんできた家庭料理、手づくりおやつなどを提供している。入居者の保有能力に合わせて調理や盛り付け、片付けなどその人の得意分野を生かし、職員と一緒にしている。寿司や手作り天ぷら、うどんなども楽しみの一つとなっている。ホットケーキ、五平餅、蒸しパンなどのおやつ作りや家族が持参した野菜を使った料理、誕生日会に合わせた料理など、手作り料理を楽しみにして作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の食事の摂取や水分の摂取状況を把握している、必要に応じて声掛けや内容を変えるなどの工夫をしてなるべく栄養と水分が摂取できる様にしている。個々での食事の量を変えるなどその人に合った提供方法をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きや口腔内の洗浄を行っている。自己にて出来ない方や介助が必要な方には必要なサポートを行っている。義歯や口腔内の状況を専門的に確認や診てもらえる機会があると良い。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のタイミングや間隔をみて状況に応じて声掛けや誘導を行っている。その方によってはトイレの動作やズボンの上げ下げと介助の内容を変えて自立した排泄介助が出来る様に工夫をしている。完璧に行うのは難しいがバット内に出てしまう事がない様に心掛けている。	個々の排泄チェック表や日常の様子などで職員は排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は自力での排泄を目指している。夜間でも、睡眠を妨げることなく尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。必要に応じて夜間のみポータブルを利用し安心できる環境に配慮している。男性用便器も設置され、自尊心に配慮した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の影響を理解し、水分量やその内容、適度な運動等で工夫をしている。慢性的な便秘の入居者様には、服薬や下剤の調整にて便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前には声掛けを行い、希望やタイミングを合わせている。本人様の入りたいという希望に合わせて、人によって同性介助にするなど工夫をしている。暖簾や入浴剤を使い気持ちよく入浴が出来る様な工夫をしている。1週間に2回以上の入浴が出来る様にしている。	入浴は週2回～3回を目安に入居者の希望を聞き9時から15時までを入浴時間とし、一人ひとりの希望に添った時間に入浴している。お湯は毎回入れ替え清潔に入浴できる環境を整えている。入浴剤を利用したり季節を感じるゆず湯で入浴を楽しめるようにしている。また、入り口に暖簾をかけて入浴を促すような環境作りをしたり、入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。身体状況等を医師に相談した上で足湯や清拭対応したり、二人介助など安全と清潔に配慮した支援を実施している。入浴後は、乳液などを利用し肌の乾燥に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理のない生活が送れる様にそれぞれでその方に合った休息の時間を設けている。自己判断でお部屋で休まれる方や、職員の判断で声掛けや誘導をして休息をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てを把握しておこう事は難しいが、看護師を中心に服薬管理を行い副作用や効果を情報共有している。また、内服の管理を行い職員により内服の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの楽しみ方や喜びに感じる事を理解して日々の生活の中に取り入れている。気分転換や息抜きとなる様に散歩や体操等を積極的に行い退屈しない様に職員も入居者様の様子を伺いながら対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出も少ないが、希望のある方などには個々に散歩やドライブなどの支援を行っている。家族の方や地域の方と協力して行っていない。(外部の受診は除く)普段行けない様な場所には行っていないのが現状である。	外出を目的にスーパーや薬局に買い物に出掛けたり、喫茶店でお茶をしたり、回転寿司やうどん屋などの食事会やお弁当持参で季節の花見などに出かけていたが、以前の様な外出は難しい状況である。天気の良い日には、職員と1対1で散歩に出かけたり、ドライブで車窓から四季の花見をするなど気分転換やストレスを発散する支援を実施している。また、敷地内の散歩や花壇の手入れ、椅子を並べてお茶会をしたりして、なるべく外気に触れることができるように心掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	あまりお金を扱う機会はないが、ヤクルトの購入等買い物をする実感を味わってもらっている。中内は個人の財布や現金を持つことで安心されている方もみえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方は、施設の電話を使ってお話をしたり、中には個人の携帯をお持ちの方もみえる。ご家族様に了承を得て実際に電話をしたりする事もある。手紙を頂く事があるが、返事をしていないので手紙を出す支援も行なっていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家に居るかのような雰囲気を大切に飾りつけ等にも施設感が出ない様に配慮して。不快感が出ない様な環境(空調、音、光など)に配慮して落ち付いた雰囲気を造れる様に気にかけている。共用部分では個人差が出る事もあり衣類調整などで対応をしている。	居間と食堂はワンフロアで、明るく風通しが良く開放感がある。玄関や廊下等の共用空間は、整理整頓され絵画などが飾られ大人の生活空間を醸し出している。建物全体の色調や色彩、照明などにも工夫がされ不快な刺激がないように配慮されている。キッチンには職員が、調理を行いながら入居者を見守ることができる配置となっている。居間には和室やソファのコーナーがあり、入居者は思い思いの場所でテレビを見たり新聞を読んだりしてのんびり過ごしている。コロナ感染予防のため、午前・午後に分けて手の触れる箇所の消毒をし、換気や手洗いも積極的に実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置を調整し気の合う人と一緒に食事をしたり過ごせる様に配慮している。また独りになってしまし孤独感を感じない様に職員は見守りその方のそばに付く等の工夫をしている。共用部分も自由に使える様に制限をしたりせず自由に過ごせる雰囲気に気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の準備の段階からその方の好みや使い慣れた物を取り入れる、身体状況をみでの安全面などを本人様やご家族様と相談しながらお部屋作りを進めている。使い慣れた物、馴染みのある物を積極的に利用して頂く様にしている。	入居者それぞれの生活スタイルを取り入れ入居者の意向を尊重した環境づくりをしている。居室には、筆筒やテレビ、椅子、加湿器など自宅で使用していた物を持ち込んで安心できる生活の場としている。また、本人や家族が希望する小物や写真などを飾って居心地良く過ごせるように工夫をしている。居室の鍵を、自分で管理している入居者もいる。天気が良い日は、職員と共に協力しながら布団を干すなど心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の方でも安全に過ごせる様に危険な物やリスクのある物への工夫をしている。分かり易い表示や使いやすい物にする等で、なるべく自立した生活が送れる様に工夫をしている。中にはどうしても省けない物もあるが、目隠しをする等で対応をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000357		
法人名	社会福祉法人 知立福社会		
事業所名	グループホームほほえみの里若林 (藤)		
所在地	愛知県豊田市若林東町上外根12番1		
自己評価作成日	令和4年9月30日	評価結果市町村受理日	令和5年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393000357-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393000357-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和4年11月22日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の進行や周辺症状で対応が困難な方にも根気強く向き合い信頼関係を築く様に努めている。介護拒否などに対してもそれぞれで工夫をして上手くいく方法を職員間で共有し活かしている。出来ない事や難しい事よりもその方が出来る事、やりたい事、喜びに感じる事を大切に考えいつまでもその方らしい生活が継続できる様に考えている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所にはデイサービスセンターが併設され、開設7年を経過し地域に馴染み買い物や散歩を通して地域との関わりや広がりが増えてきている。「心と心が通い合い、ともに笑顔で地域の中に暮らす」の理念と、年度ごとにグループホームの目標やユニット目標を職員で考え、それらを振り返りながら、日々の生活の中で、入居者が自分の有する能力に応じて自分らしく過ごせるように、一人ひとりに添ったケアをするように努めている。また、「ほほえみの里若林のスタッフルール」を行動規範として、自分の行動を振り返り見直しをしながらケアに努めている。今まで培ってきた地域との交流もコロナ感染症の影響で踏み止まっているが、周りの環境の良さを活かし四季の移ろいを感じながら近隣を散歩したり、車で季節の花を見に行ったり、自宅を見たりして地域環境を忘れないようにしている。家族からの嗜好品の差し入れも以前に増して繋がりを深めている。普段している家事や花壇の手入れ、編み物、一人将棋など今まで培った生活習慣や経験を楽しみながら日常に活かす支援をしている。また、手作りの食事やおやつなど職員と一緒に調理したり、ゆとりの時間を見つけて出し職員と1対1で散歩に出かけたり庭先でお茶をするなど、気分転換やストレスを発散できる機会を作り、コロナ禍でも事業所でできることを職員と共に考え生活に取り入れている。調度品や絵画などが程よく配置された落ち着いた大人の生活環境の中で、自分らしくいられる場所に集い、安らぎあるのびのびとした生活を楽しんだり、柔らかな日差しが注ぐ和室で寝そべったり、ソファに腰かけ新聞を読んだり、職員と一緒に会話をしたりと過ごしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で共に暮らしを送り、穏やかな家庭的な雰囲気の中で過ごす事が出来る様に職員間で理念の共有や意識の統一を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はコロナの影響で行う事が出来なかった。地域のお祭りやイベントも参加する事が出来なかった。認知症カフェを再開し、感染者の状況をみて行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェや見学相談時には専門職としてのアドバイスを意見交換を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者を中心に行い、主に活動や状況報告を行ってきた。参加者より助言等を頂いたり、地域の行事や活動の状況等を教えて頂き、今後の地域参加等へ活かしていきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の研修や勉強会に積極的に参加をしている。市町村への事業の報告等は特に行っていない。運営に関する相談や質疑等は時々で行っている。市からの介護相談員さんに定期的にお越し頂いて入居者様への相談や意見を伺って頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けた勉強会とモニタリングを行い、ユニット間で意識の統一を行っている。言葉による拘束等様々な視点から拘束について考えて取り組んでいると思う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアを含め、日頃の振り返りや職員間で意見や指摘を出来る様な雰囲気づくりに心掛けている。虐待防止の指針を定めて職員間で共通の意識を持てる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当の事例が無く、内容についてもあまり理解できていない。知る機会を設けて今後の支援に繋げていけると良い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書作成と口頭にてご家族様に説明を行って同意や理解を頂いている。都度、質問を伺ったり不安に思う事を伺い丁寧な対応に心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の要望は日々のコミュニケーションから聞き出し、可能な限り叶えられる様に職員間やご家族様にご協力を頂いている。中には、叶える事が大変難しい内容もあり、そ満足のいかない事もあるかと思う。ご家族の意見も、来館時や面談時に伺い、管理者や運営に反映できる様に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談やユニット会議を通じて職員の意見や考えを聞き、言い易い雰囲気を作る様に努めている。聞き出した意見は管理者を通じて法人本部や上司に報告や依頼をする事もある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回以上の個人面談や人事考課を行い、成果や勤務の態度や状況を考慮して賞与等に反映させている。人で不足な状態で、有給消化や過労な状態が続いている為、早い改善を求めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外や施設内の研修、勉強会に積極的に参加し個々のスキルアップに繋がれる様に努めている。働きながらのトレーニングをするにあたり指導者のスキルアップも必要ではないかと思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修を通じて各々に他施設の職員と交流を図っている。コロナ禍で難しとは思いますが、事業所主体のその様な機会があると嬉しい。色々なGHでどの様な感じで行っているのかを知れたら良いと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直ぐの時期には特に慎重に声掛けやコミュニケーションを図り心身状況の把握や本人様の希望や不安などに耳を傾ける様に対応をしている。認知症でうまく表せれない方は表情などを読み取り少しでも安心できる環境を作り出せる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談等で、施設での生活に関する不安や疑問点、どの様な生活を送ってもらいたいのか、またどの様なサービスを臨むのかを聞き、ご家族様とも積極的に交流を図る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居段階でのケアプランと実際の様子を比較して今必要とされる事は何かをケース検討会やモニタリングを行い見直しをしている。入居初期段階では本人様、ご家族様の状況も不安定な時期な為慎重に行えていると思う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症になってもご本人が出来る事を一緒に行い、同等の立場、又はケアをさせて頂いているという気持ちを忘れない様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の存在は生活を送る為にとても大切な存在と認識して、常にコミュニケーションや連携を図れる様に積極的にアプローチを行っている。中には協力が難しいご家族様も居る為、その様な場合にはご家族様のサポートや行っていかなくてはならないと思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、外出や面会等で馴染みの場所や馴染みに人との交流が思う様に出来なかった現状の中、住んでいた町や行きつけの場所などへ個々にドライブなどを通して行き、懐かしさや気分転換などを図れた方もいる。全員では無く、一部の入居者様に限られてしまっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の仲の良さや相性を職員は理解しており、職員も中に入りながら入居者様同士の交流や支え合いが出来る様に配慮している。職員は孤立や孤独にならない様に一人一人の様子を確認しながら日々を過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居や、施設復帰が困難な入院等で契約終了の際は先方に身体状況や生活の様子等の情報の共有を行い、その後も相談や質問等を頂く様に促している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれが持つ思いや希望などをケアマネージャーを中心に聞き取り、介護職員も日々の会話の中より聞き出とリケース検討会などで共有し実子が出来る様に話し合っている。意思疎通や会話が困難な方もなるべく本人だったら、という思いで接する様に心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の段階より、本人様やご家族様より、過去の生活歴や職歴、どの様な環境で生活をしていたのかを聞き、グループホームでの生活に結び付けれる内容は積極的に取り入れていく。日頃の会話の内容も参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や本人様との交流、職員間の情報を通じて現状の心身状態や有する能力を把握し、その力を犯せれる様に職員も対応を個別化している。中にはやり過ぎてしまう事があるので、有する能力を活かした過ごし方に気を付けたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心にケアプランの作成を行うが、本人様やご家族様の意見も踏まえ、介護職員や看護師など様々な意見を出し合える様に検討会やモニタリングを行っている。現状の状態と不一致な内容は早めに変更等を掛けれる様に対応出来たら良いと思う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子特記事項など職員が記載しており、情報共有に活かしている。申し送りノートや生活記録を情報共有の一環として役立たせている。職員のわずかな気づきをもっと記録として残してけると良いと思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズや状況に対応できる様に、サービスや対応などに変化をつけ、これまでのサービス内容や情報に捉われない様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方にとっての地域資源を理解する様に努めて本人様を取り巻く環境を活かしていきたいが、コロナの為思うような地域資源との協働が出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される方はこれまでの主治医や医療機関に掛かる事が出来る、また新たに施設の訪問診療を利用する事が出来る。入居前に選択をして頂いている。双方どちらの場合にも、本人様が安心して医療を受けられる様に、医療機関等との連携を看護師を中心に情報共有、報告等を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護職員と同じ様に直接入居者様との生活を共にしている。日々の健康管理を中心に心身の状況も介護職員と情報を共有し合い、相談し合いながら適切な看護が受けられる様な体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医療機関への情報提供や、退院に向けての地域連携室等への定期的な治療等の進捗状況や心身状態の確認を行い連携を図っている。同時に、ご家族様との連絡も行い、少しでも早い退院に向けて努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設でにおける重度化に関する指針を定め入居契約時に説明と同意を得ている。それ以外にも利用中に身体状況の低下が見れてきた際や状況が変わった際、当施設で対応が難しくなるだろうと予想がされた際など、ご家族様への説明や、場合によっては特養などの施設への転居が相応しい等の面談を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年は中止となったが、新人職員を中心に救命救急法を受講している。また、緊急時のマニュアルを作成し対応職員が適切な応急処置や緊急搬送を行える様に整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災や地震に関する消防避難訓練を行っている。災害に関する知識や対応力を身につける様に実際の災害を想定して訓練を行っている。AEDステーションや高齢者の避難場所として活用して頂ける様に地域への促しも勧めていきたい。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は声掛けの仕方や伝え方等に、人格や自尊心を傷つけない様な方法を行う様に心掛けている。その内容もスタッフルールとして決め入職時のオリエンテーションでも意識を持って臨む様にしている。入居者様への直接関わらない申し送りや職員間の会話にも同じ様に取り組んでいる。時々意識が出来ていない職員が見られる際にはお互いに声を掛け合う様にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや誘導の際は、本人様の思いや希望が引き出せる様に選択式の声掛けをする等意識して行っている。自己表現で表せられない方などは、その方にとって何がベストかを考えて職員主体のケアにならない様に気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員から働き掛ける時は、最終的にご本人様の意見や規模にそったケアに心掛けている。一日の過ごし方やタイムスケジュールに沿った過ごし方にならない様に職員間での意識の統一が大切になると思う。その中でも入居者様の希望ばかりになってしまうと事があると内容によってはバランスが良くない時もあるので難しいと思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や身だしなみを整え、人によってはおしゃれやお化粧をする等、個々の状況に合わせてサポート出来る様にしている。自分で服を選ぶなど好みや気分に合わせて身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの嗜好や食事に関する状況を把握し、個々の食事提供を行っている。また、一緒に調理や盛り付け等を行い、食事が生活の中の楽しみとなる様に心掛けて一緒に取り組んでいる。家族様により、漬物やお菓子などこれまでの生活で楽しんできた食品をお持ち頂いている方もみえる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や形態を個別化し、その方に合った食事の食べ方で食事を提供している。また、飲み物等の水分も本人様がすすんで飲める様に、お茶だけでなく、ジュースやスポーツドリンク等も用意して水分摂取がしやすい様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きや義歯の洗浄を行っている。自己にて行えない方は職員がサポートに入り口腔内の清潔に努めている。異常がある場合は地域の歯科やご家族様と協力して歯科受診等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でトイレや排泄が難しい方には、その方の排泄状況やパターンに沿って声掛けや誘導を行っている。パット等をご利用されている方もトイレでの排泄が出来る様に、不快感を与えない様に日々の様子を観察して対応しているが、場合によっては失敗をしてしまう時もあり、自尊心に気を付けた対応に心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の心身に及ぼす影響を理解し、排便コントロールが必要な入居者様、その他の方にも便秘の予防を行っている。適度な運動や水分摂取、服薬調整を個々の状況に応じて行っている。排便のチェックを行い、排便状況を確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間や入浴回数を、本人の希望や気分に合わせて入浴前には確認をして、心地よく入浴が出来る様に声掛けや案内をしている。週に2回以上の入浴回数を目標としている。入浴剤を使う、希望者には同性介助で行うなど、誘導から入浴中も気持ちよく入浴し気分転換や身体の清潔に繋げている。体調が良くない時や気分が乗らない日が続くときは清拭や足浴などで代用する事もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自己にて判断して休息をされる方、自己判断や行動が出来ない方はこちらから様子を伺い、横になって頂く等の支援をしている。個々の体力や過ごし方を見極めて行っている。夜間も良眠が出来る様に環境を整えている。不眠時などは職員と一緒に過ごすなど安心出来る環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員も全てを把握して理解しておくのが理想と思うが、現状そこまで出来ていない。個々の服用薬を理解し適切な内服ケアが出来る様に努めていきたい。2重チェックや声出し確認を行い誤薬等の内服ミスには十分に気を付けて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が出来る事や行いたい事を行って頂き、生活の中で楽しみや喜びに感じる事を取り入れている。また、体操やウォーキング等気分転換を図れる様に支援している。中には、やる事ややれる事がなく、ただ一日を過ごした。という日が出てしまう事もある為、少しでもこの様な活動が出来る機会を増やしていきたいと思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、以前に比べて外出支援の機会が大幅に減ってしまった。その中でも、少しでも戸外に出て散歩等を取り入れている。しかし、本人様の要望や行きたい場所への外出が出来ていない為満足には欠ける事が多いと思う。家族様へは受診の支援のご協力を頂いている事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、本人様における現金の所持や取り扱いを行う機会がほとんどない。共にいく買い物や外出の機会も無く自セエ延出来ていないと思う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持してご家族と連絡を取り合っている入居者様もみえます。ほとんどの方が電話や手紙のやり取りを行っていませんが、ご家族様よりメッセージカード等を頂く入居者様もいる。年賀状等を活用して行っていきたいと思う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気大切に環境整備に努めている。空調や照明など、その時々状況に合わせて入居者様が快適に過ごせる様に気を付けている。職員が出す音や声も不快にならない様に気を付けながら過ごして。個々の体感差がある為、共同のスペースには難しさがあるが衣類の調整等を勧めている。季節ごとの飾りつけや雰囲気を出せる用意掲示物なども工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室など共用部分にも独りになれる場所を作り、また気の合った人同士が同じテーブルにする等の配慮を行っている。それぞれが制限される事無く、各々で自由に共有空間を使える様な状況にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に家具や物を入れて頂き、入居時よりご家族様、ご本人と相談しながら過ごしやすく気に入った環境作りをしている。また、安全面にも配慮して移動スペースなども工夫をしている。準備時には、馴染みの物や使い慣れた物を取り入れて頂く様にご家族様にもお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の方でも自立した行動をとれる様に、また安全に分かり易く過ごせる様に表記や表札を取り入れている。危険な物や備品は行い等の配慮をしている。		